

| | | | |
|---------|---|---------|---------|
| 氏名 | 蓮井雅浩 | | |
| 学位の種類 | 医学博士 | | |
| 学位授与番号 | 博乙第 2210 号 | | |
| 学位授与の日付 | 平成 2 年 12 月 31 日 | | |
| 学位授与の要件 | 博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当） | | |
| 学位論文題目 | 心臓のリンパ循環に関する研究—心表面リンパ管への直接 cannulation 法を用いた冠動脈血流量，心収縮力，心拍数の影響— | | |
| 論文審査委員 | 教授 寺本 滋 | 教授 原岡昭一 | 教授 木村郁郎 |

学位論文内容の要旨

麻酔開胸犬を用いて左冠動脈前下降枝に沿う心表面下リンパ管に直接 cannulation を行なう方法を開発し，心臓リンパ循環について検討した。

adenosine 及び serotonin の冠動脈内投与により心臓リンパ流量は冠動脈血流量の増加に伴い増加し，リンパ液中の蛋白濃度は減少した。これは冠動脈血流量の増加によるリンパ流量の増加では，水の流出が蛋白の流出を上回るためと考えられた。

histamine 及び isoproterenol の投与では adenosine や serotonin に比較して，冠血流量の増加に対するリンパ流量の増加がより大きかった。これは血管透過性の変化及び心収縮力の増大がリンパ流量に関与していることを示すと考えられた。心房 pacing による心拍数の増加は心臓リンパ流量には負の要因として作用し，心拍数の増加に伴い心臓リンパ流量は減少した。これには主として拡張期の短縮が関与していると考えられた。

論文審査の結果の要旨

本研究は心臓のリンパ循環について検索したものである。犬の心表面リンパ管へ直接 cannulation を行い，薬剤の投与や心房 pacing による脈拍の増加に伴っての冠動脈血流量，心収縮力の変化と心臓リンパ流量との関係を検討し重要な知見を得たものであって，価値ある業績であると認める。

よって，本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。